

「貯水槽の群れ」

—初稿—

2025/7/16

雨森 れに

〈人物表〉

宮下^{みやした}
ゆうり

(22) 自殺願望を持つ大学生

金井^{かない}
敦^{あつし}

(35) 窓ガラスの清掃業者

管理人

(72) 雇われの管理人

1. マンション・屋上（朝）

都心にある古いマンションの屋上。屋上への扉は、鍵が壊されている。

中央で寝転がっている宮下ゆうり（22）。

屋上に現れる金井敦（35）。

ゆうりを見て驚く。

敦 「あの、窓清掃の準備で……」

ゆうり 「え？ ああ。タイミング最悪」

敦 「すみません。お知らせ、いってなかったですか？」

ゆうり、体を起こして、

ゆうり 「13時まで待てない？ 私、死ぬから」

2. マンション・管理室・室内（朝）

1階にある一般的な管理室。

管理人がタイムカードを押す。

窓口に座り、小型テレビをつける。

敦が管理室の窓を叩く。

敦 「ちょっといいですか」

管理人 「はいはい。いつもお世話様ね。場所はわかるでしょ？」

敦 「その、問題があつてですね……」

管理人が首を傾げる。

テレビからニュースが流れる。

アナウンサーの声 「緊急速報です。全国のビル、マンションの屋

上に若者が立っています。本日、集団自殺が行われる可

能性があるとみられます。政府は――」

管理人が敦と目を合わせる。

敦、静かに頷く。

管理人は震える手で、固定電話の受話器を取る。

敦 「警察が来たらすぐ飛ぶって言ってます」

管理人はあつけにとられた表情をし、受話器を戻す。

3. マンション・屋上（朝）

ゆうりは手すりから身を乗り出して、街を見下ろす。
街中をパトカーや消防車が走り回っている。

身を乗り出すのをやめ、手すり沿いに歩き出す。
鼻歌で『エーデルワイス』を歌いながら。

4. マンション・階段・踊り場（朝）

屋上に繋がる扉の前。窓清掃の道具がまとめられている。

敦がゆうりの様子を伺っている。

胸ポケットで電話が鳴る。

敦 「もしもし。あ、はい。そうです。ええ。女の子がひとりです。……え？ 自分がですか？」

5. マンション・屋上（昼）

ゆうりは、手すりの内側に座っている。視線は遠く、後ろにいる敦のことは気にしていない。

敦が一步近寄る。じやりっと音がする。

ゆうり 「ここだけ止めても無駄だよ」

ゆうりは振り向かない。

正面のマンションを指さす。

屋上に人影がある。

ゆうり 「あっちにもいるし」

正面右のビルを指さして、

ゆうり 「あっちも」

やはり屋上に人影がある。

ゆうり 「今は見えないだけで、もっといると思うよ」

敦 「なんで今日、なんだよ……」

ゆうりが、ようやく敦を見る。

ゆうり 「（笑顔で）だから、タイミング最悪なんじゃん？」

敦は額を押さえる。

ゆうりが鼻歌を歌い始める。

敦、歌に気づいて、

敦 「エーデルワイス？」

ゆうり 「よくわかったね」

敦 「田舎で、お昼の音楽になってたから」

ゆうりは敦に体を向ける。

ゆうり「え、一緒。もしかして市内放送？」

敦「そうだよ。そっちも？」

ゆうり「うん。どこ出身？もしかして長野？」

敦「マジかよ。諏訪だけど」

ゆうり「同じ同じ！やば、偶然にもほどがあるんだけど」

敦の胸ポケットが震える。

敦はポケットを押さえ、ゆうりの楽しそうな顔をまじまじと見つめる。

敦「じゃあ、同郷のよしみでさ。自殺、やめてくれないかな」
ゆうり「それは無理でしょ」

ゆうりは白けたように無表情になる。

あっちに行けと手を振り、また背を向ける。

敦が胸ポケットから携帯を取り出し、目を見開く。

そして、腕時計を見る。アナログな時計で、時間は11時半を指している。

敦は屋上を後にする。

ゆうりの存在を確かめるように、何度も振り返りながら。

6.

マンション・管理室前（昼）

敦が、管理人に頭を下げ、出ていく。

× × ×

敦が戻ってくる。手にはコンビニ袋。

7.

マンション・階段・踊り場（昼）

敦、屋上への扉の前で立ち止まる。

胸ポケットから携帯を出し、清掃道具の上に置く。

8.

マンション・屋上（昼）

ゆうりは変わらず景色を眺めている。

敦「死ぬ前に、飯どう？」

ゆうり「やだよ。中身出たら汚いじゃん」

敦「なら、そもそも飛び降りが違うだろって」

敦は、ゆうりと2メートルほど距離を取って座る。

コンビニ袋からおにぎりを取り出し、食べ始める。
ゆうり、ちらりと見て、

ゆうり「むしろ、よく食べれんね」

敦は答えず、もくもくと食べ続ける。

ゆうりは軽く息を吐く。そして、視界に入るビルの屋上を、ひとつひとつ眺める。

ゆうりと同じように座り込んでいる者。何度も下を確認する者。もう飛び降りそうな者。警察に囲まれている者——それぞれが13時を待っている。

ゆうり「貯水槽みたい」

敦「なに？」

ゆうり「屋上にひとりずついてさ」

敦がまわりを見渡す。

敦「おもしろいこと考えるんだな」

ゆうり「発想力には自信があんの」

敦「自分が死なない世界線は考えないわけ？」

ゆうり「もう考え尽くしたし、疲れた」

ゆうりは時間を確認しようとする。しかし、携帯の充電が切れていて、わからない。

ゆうり「（振り向いて）ねえ、今何時？」

敦は腕時計を確認する。

時間を答えようとして、やめる。

代わりに『エーデルワイス』を歌う。

ゆうり「え、歌詞まで覚えてるの」

敦は歌い続ける。

ゆうりは歌声を聞きながら、また景色を眺める。

正面マンションの屋上から、人が落ちていく。

次に正面右のビルから人が落ちる。

ゆうりは立ち上がり、手すりに駆け寄る。

下を見る。

そして、ゆっくりと敦を見る。

ゆうり「12時じゃないじゃん」

敦「12時だよ」

敦が腕時計をみせる。

ゆうり 「ここからじゃ見えない」

敦 「こっちまで来いよ」

ゆうりが、敦の元へ歩いていく。

敦の腕を取り、時計を見る。

ゆうり 「ほんとだ」

敦 「政府が電波時計をいじったんだとき。携帯で見たら今は14時ぐらいじゃないかな」

ゆうり 「みんなで死ぬ計画、おじゃんじゃん」

ゆうりは脱力してへたり込む。

敦がいくらのおにぎりを差し出す。

敦 「みんなでできないなら、意味ないんじゃない」

ゆうり、おにぎりを受け取る。

パッケージを見つめて、

ゆうり 「諏訪に、帰ろうかな。鮭の群れみたいに」

敦 「川に帰るってやつ？」

ゆうりははにかんでいて、答えない。

9.

都会のビル群（夕）

ビルの上にある、様々な貯水槽。

昼間の騒動を感じさせない、綺麗な夕焼け。

おわり